学校番号	412

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校　新倫理　（清水書院）						
副教材等	テオーリア　最新倫理資料集　（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・世界とは何か、人間とは何か、人生どう生きたらよいか、自己とはどのような存在なのか、社会にどのようにかかわっていけばよいかなどについて思索する学問である。
・他者と切り離された自己ではなく、他者と共に生きる主体としての自己の確立を思索する学問である。
・単なる知識ではなく、自己の課題として捉える。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】
・人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせる。
【思考力、判断力、表現力等】
・現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う。
【学びに向かう力、人間性等】
・広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 ・諸資料から、人間の在り方生き方に関わる情報を調べまとめることができる。	・自立した人間として、他者とともによりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。 ・現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができる。	・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追及したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。 ・多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	現代を生きる自己の課題	序　人間とは何か 第1章 個性的な主体としての自己 第2章 心と行動をめぐる探究	a:人間観に関する概念、パーソナリティーに関する理論を理解し、個性や人間の行動を多面的に説明することができる。欲求・感情・認知・発達に関する心理学的知見を理解し、個性や行動を多面的に説明することができる。 b:人間存在自体を考察し、個性や行動の心理学的知見や意欲・知覚・記憶・問題解決・発達などに関する心理学的知見から、人間存在及び他者と共に生きり自己の生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。 c:人間としての在り方を追求し、パーソナリティに関する理論やさまざまな心の在り方に関する理論を手掛かりに人間としての在り方生き方を主体的に追求しようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価

	人間としての自覚	第1章 哲学の始原:ギリシア哲学 第2章 唯一神の宗教:キリスト教・イスラム教 第3章 東洋思想の源流:仏教・儒教・道家	a:古代ギリシア哲学の人間観や世界観を資料から読み取り、理解を深めることができる。それらの諸概念を自己の課題と結び付けて説明することができる。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教、儒教、道家の倫理に関する諸概念を資料から読み取り、理解を深めることができる。それらの諸概念を自己の課題と結び付けて説明することができる。 b:古代ギリシア思想の知見や、キリスト教、イスラム教、仏教、儒教や道家の知見を用いて、自己の生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。 c:ギリシア哲学の人間観の学習を通じて、また各宗教の倫理の学習を通じて、人間としての在り方生き方を主体的に追求しようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価
		第4章 芸術と倫理	a:作品の特徴から作者が作品の込める思想を富み解くことができる。 b:芸術作品を通して、自己の生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。 c:美の概念に関わらせ、自らの在り方生き方を主体的に追求しようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価
2学期	現代をかたちづくる倫理	第1章 近代の成立	a:合理化や進歩といった近代的概念を説明できる。 b:合理化や進歩といった近代を特徴で切る概念についての考察を深め、適切に表現することができる。 c:近代の人間観の学習を通じて、人間としての在り方生き方を主体的に追求しようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価

		第2章 世界と人間をめぐる探究 第1節　人間の尊厳	a:ルネサンスや宗教改革、モラリストの思想家の人間観や世界観を資料から読み取り、理解を深めることができる。それらの諸概念を自己の課題と結び付けて説明することができる。 b:ルネサンスや宗教改革、モラリストの思想家の知見を用いて、自己の生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。 c:各思想家の倫理観や人間観の学習を通じて、人間としての在り方生き方を主体的に追求しようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価
		第2節　真理の認識―経験論と合理論	a:ベーコンの経験論やデカルトの合理論に関する知識を身に着け、それらの思想家の原典資料を適切に読み取ることができる。 b:経験論や合理論の世界観を通して、人間がよりよく生きるために何が重要かについての思索を深め、適切に表現することができる。 c:真理や存在について、事故の生き方に結び付けて主体的に探究しようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価

		第3節　民主社会と倫理	a:ホッブズ、ロック、ルソーの社会契約説、啓蒙思想家、カントやヘーゲルのドイツ観念論、ベンサムやミルのイギリス功利主義、バースやジェームスらのプラグマティズムの基本的知識を身に着けている。 b:社会契約の思想、人家鵜の尊厳に関する思想、功利主義の思想を通じて、民主社会と個人との関係について考察し、民主社会の発展のために何をすればいいかという思索を深め、適切に表現することができる。 c:個人と社会全体の幸福について、何をすればよいかを考察しようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価
		第4節　現代社会と個人	a:社会主義の思想、キルケゴール、ニーチェ、ヤスパース、ハイデガー、サルトルらの実存主義、アーレント、フランクフルト学派、ロールズらの政治哲学の基本的知識を身に着けている。 b:社会主義、実存主義、現代の政治哲学、社会貢献の具体的事例を通して、社会と人間の在り方を考察し、よりよく生きるために何をすればいいかという思索を深め、適切に表現することができる。 c:自らが社会を構成する主体であることを自覚し、事故と社会全他の幸福の実現に積極的に参加しようとする態度を身に着けようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価

		第5節　近代の世界観・人間観の問いなおし	a:ベルグソン、フロイト、ユング、レヴィ＝ストロース、フーコー、ヴィトゲンシュタイン、クーンらの思想家の基本的な知識を身に着けている。 b:近代の世界観・人間観を問い直した現代の諸思想を通して、自己の生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。 c:現代思想の提起した課題について、人間としての在り方生き方を主体的に追求しようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価
	国際社会に生きる日本人としての自覚	第1章 日本の風土と精神文化 第1節　日本人の人間観・自然観・宗教観	a:原始神道に見られる自然についての意識や日本人の死生観、善悪についての道徳観を原典資料を通して、適切に読み取り、理解することができる。 b:古代日本人の考え方を手掛かりとし、日本人の生き方について、適切に表現できる。 c:日本人としての在り方生き方について、主体的に生きていくために必要なことを身に着けようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価
		第2節　日本人の仏教需要	a:部今日の需要と展開を古代から鎌倉時代までの仏教者を通して、適切に理解し、表現することができる。 b:日本における仏教需要とその思想が今日の日本人の考え方にどのように影響しているかという思索を深め、適切に表現することができる。 c:外来思想の受容の歴史の学習を通して、人間としての在り方生き方を主体的に追求しようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価

		第3節　近世社会の思想	a:日本の伝統思想について、儒教などの外来思想の受容や国学による古代精神の探求などを通して、適切に理解し、表現することができる。 b:儒教や国学、近世庶民の思想などの日本人の人間観、自然観を考察することを通して、日本人の生き方について考察し、適切に表現できる。 c:日本の先哲の学習を通して、人間としての在り方生き方を主体的に追求しようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価
		第2章 日本の近代化と人々の生き方 第1節　西洋近代精神の摂取 第2節　近代的個人の自覚 第3節　主体的な生き方と価値観の模索	a:西洋文化を摂取し、新しい文化や思想を形成した思想家の基本的な知識を、原典資料を適切に読み取り、説明することができる。 b:西洋文化や思想を受容する際の課題意識を自己の課題に結び付けて考えることができ、本人の生き方について考察し、適切に表現できる。 c:近代日本の思想家の学習を通して、人間としての在り方生き方を主体的に追求しようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価
3学期	現代における諸課題の探究	第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題	a:自然や科学技術との関りにおける倫理的課題に対して、その解決に向けて、今まで学んできた倫理に関する概念などを適切に活用できる。 b:生命、自然、科学技術などとの人間の関りについての倫理的課題を見出し、多角的に考察し、自分の考えを説明、論述できる。 c:生命、自然、科学技術などとの人間の関りについての倫理的課題の探究を通して、人間としての在り方生き方を主体的に追求しようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価

		第2章 社会や文化にかかわる諸課題	a:他者との協働、共生にむけた倫理的課題に対して、今まで学んできた倫理に関する概念などを適切に活用できる。 b:福祉、文化と宗教、平和についての倫理的課題を見出し、多角的に考察し、自分の考えを説明、論述できる。 c:福祉、文化と宗教、平和についての倫理的課題の探求を通して、人間としての在り方生き方を主体的に追求しようとしている。	小テスト 定期考査	提出課題 授業態度 発問評価 定期考査	レポート 提出 提出課題 授業態度 発問評価

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度